



Report on research

安全、おいしさ、 見た目などの品質面で 国産支持

— 2015年度上半期 消費者動向調査 —

消費者の食の志向はどのように変化しているのか、最近の食料・農業をめぐる情勢の変化の中で消費者の食料・農業に対する意識・意向はどうなっているのか。昨年7月に実施した消費者動向調査の結果について、そのポイントをご紹介します。

年的に見ると、国産であることを気にかける傾向が高まっていることが分かります。

また、国産食品（国産原料の食品）に対する「安全面」「おいしさ」「見た目」のイメージについて聞いたところ、国産食品は「安全である」「おいしい」「色・形がよい」とする割合が、七二・八％、六五・八％、四八・九％となりました。いずれも二〇〇九年七月の本設問開始以降、最高値であり、これら品質面で国産品が支持されていることが顕著となりました（図3）。

輸入品と比べ、どのくらいの価格レベルまでなら国産品を選ぶか、いわゆる価格許容度を聞いたところ、「割高でも国産品を選ぶ」が、前回調査（六四・〇％）をわずかながら上回り六四・一％となりました（図4）。これは、〇八年五月調査（六四・七％）に次いで、過去二番目に高い割合となっています。

飼料用米で育てた畜産物に関する意向

約九割が購入に意欲

「輸入穀物の代わりに国産の飼料用米を家畜に与える取組」を知っているかどうか聞いたところ、「知っている」は、三〇・九％に留まる結果となりました（図5）。飼料用

米の取り組みに対する消費者の認知度はいまだ低いことが分かりました。

次に、このような飼料用米の取り組みについて、「どのような効果が期待できると感じるか」を聞いたところ、飼料用米の生産を通じた「農地の維持」が二四・九％で最多となりました（図6）。

次は、輸入飼料ではなく、国産の米を餌として畜産物が生産されるために「安全に感じる」で二三・一％となりました。

「飼料用米で育てた畜産物の今後の購入意欲」を聞いたところ、「購入したい」とする回答が八七・四％となりました（図7）。おおよそ九割と多くの消費者に購入意欲があるということが分かりました。購入経験者からは「飼料用米」という国産の飼料で畜産物が生産されることにより、「安全である」という印象や、「おいしく感じる」といった意見もありました。

今後の飼料用米の取り組みの拡大に向けて、期待が持てる結果となりました。

続いて、飼料用米で育てた畜産物などについて、従来品に対し、どの程度割高でも購入するか価格許容度について聞いたところ、「割高でも購入したい」が各品目で五割程

消費者の食や農林水産に関する意識・意向を把握するため、日本公庫では、毎年二回、消費者動向調査を実施しています。

二〇一五年度上半期では、毎回実施している「食に関する志向」のほか、特別調査として、現在、生産・利用の拡大が推進されている「飼料用米で育てた畜産物に関する消費者の意識・意向」を調査しましたので、その概要をご紹介します。

食に関する志向

「経済性志向」が大きく上昇

現在の食に関する志向では、「健康志向」が四一・〇％となりました（図1）。これは、前回調査（二〇一五

年一月実施）から四・四ポイント減少したものの、二〇一〇年一二月調査から一〇期連続で最多の回答となつていきます。一方、「経済性志向」が三八・四％となり、前回調査から六・〇ポイントも上昇しています。昨年四月以降、食料品をはじめとする消費者物価が上昇傾向にあり、食費をなるべく節約したいという消費者の意向が高まっている結果であることが考えられます。

食料品を購入するとき、あるいは外食するとき、国産かどうかを気にかけるか聞いたところ、「気にかける」とする割合は、購入するとき、前回調査より〇・四％上昇し八〇・〇％、外食するときと同値で三九・二％となりました。（図2）。経

図1 現在の食の志向(上位)の推移(2つまで回答)

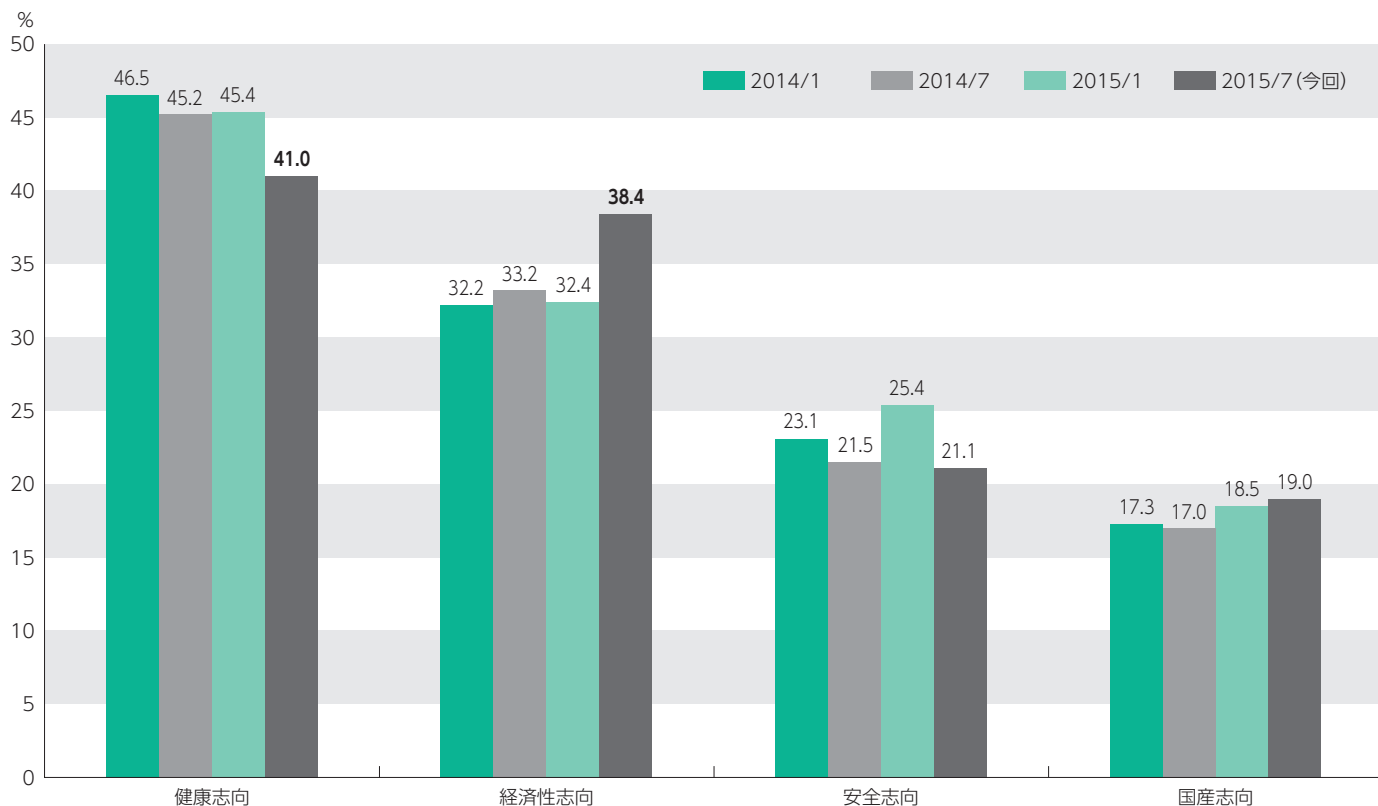
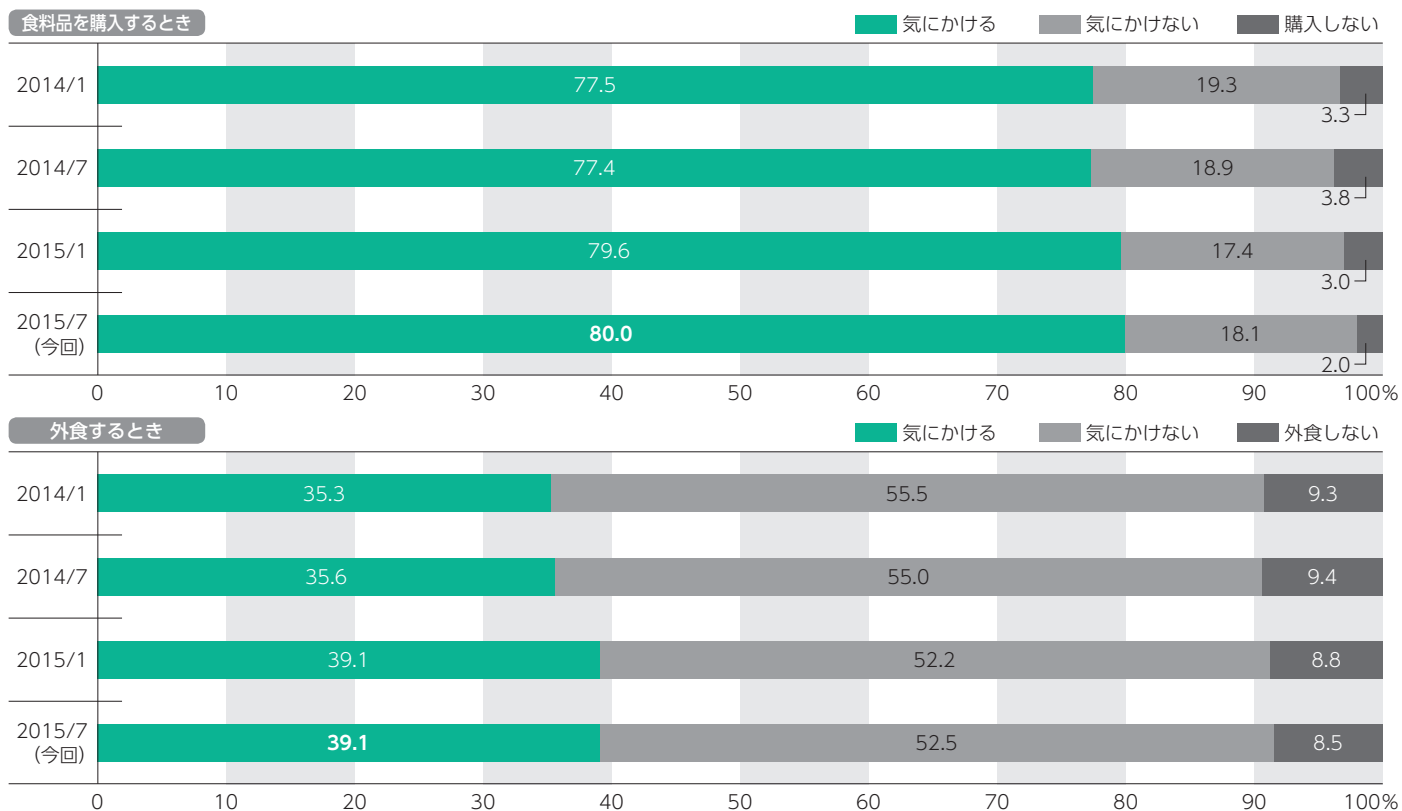


図2 食料品を購入するとき、あるいは外食するときに、国産かどうか気にかけるか



度となりました(図8)。

一方で、「購入したい」とする価格帯は、従来品と「同等」および従来品よりも「一割高」までとする回答が、全品目で八割程度を占めています。

図7の「購入したい」とする回答のうち、最も多い回答が「価格次第では購入したい」(四二・七%)であることと併せて考えると、今後、飼料用米で育てた畜産物を定着させていくためには、従来品と同等か一割高程度での価格設定を目指すことが望ましいと考えられます。

その他、今回の調査では、消費者が食品を購入する際、安全性について何を判断基準としているのかなどのアンケート調査も実施しています。その内容や今回ご紹介した内容の公表資料などにつきましては、当公庫ホームページに掲載しております。

(<http://www.jfc.go.jp/n/findings/investigate.html#sec04>)

(情報企画部 大竹 匡司)

〔調査概要〕

● 調査対象：全国の二〇～七〇歳代の男女二〇〇〇人(男女各一〇〇〇人)

● 実施時期：二〇一五年七月一日～一五日

● 調査方法：インターネットによるアンケート

注：図については、四捨五入の関係上、合計が一致しない場合があります。

図3 国産食品(国産原料の食品)に対するイメージ

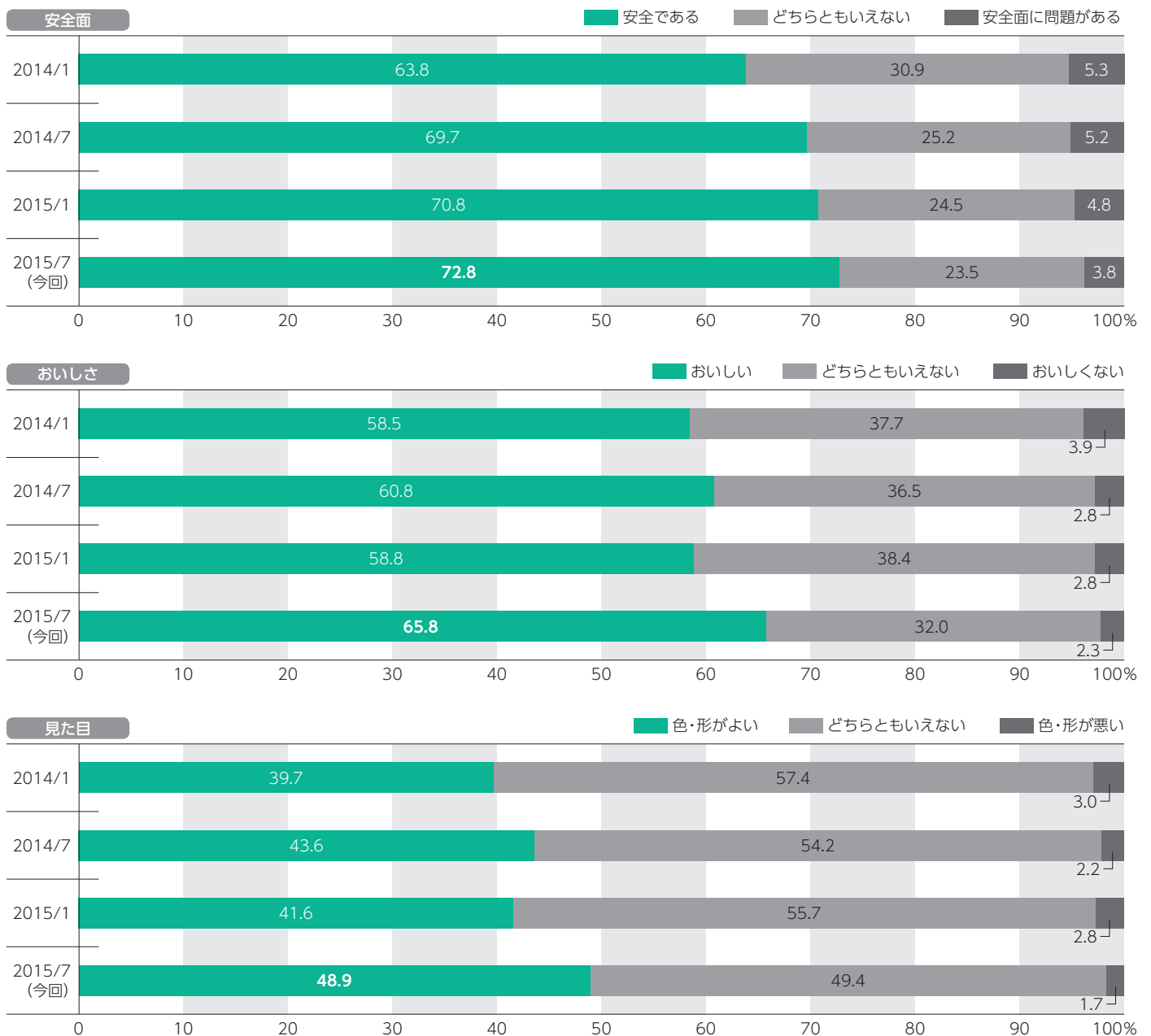


図4 国産食品の輸入食品に対する価格許容度

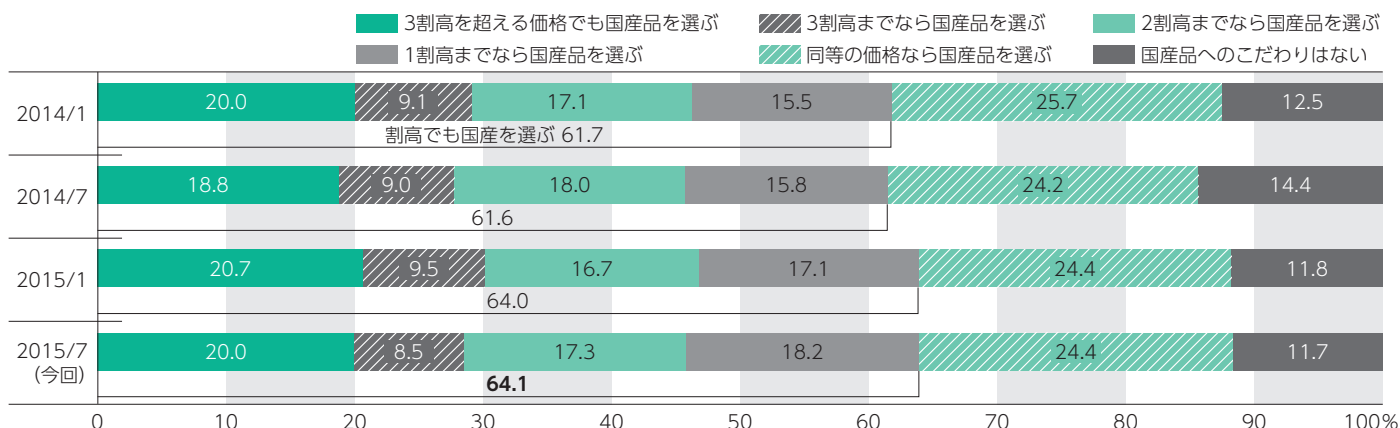


図5 「輸入穀物の代わりに国産飼料用米を家畜に与える取組」に対する認知度

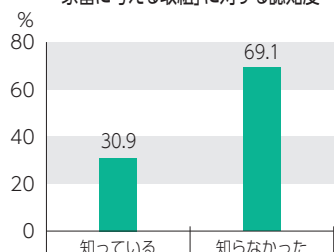


図6 家畜の飼料に国産の米を利用する取り組みにより、どのような効果が期待できると感じるか

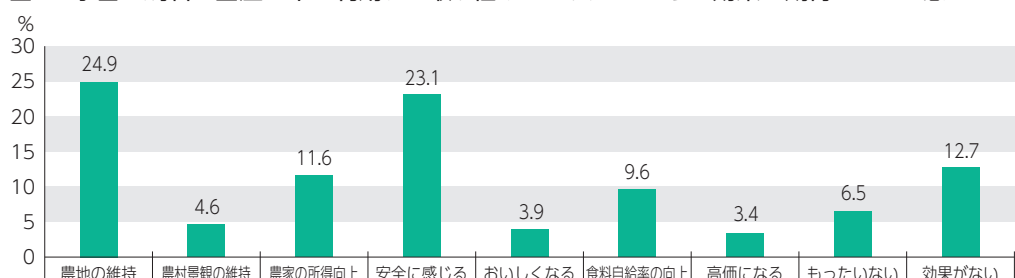


図7 飼料用米で育てた畜産物の今後の購入意欲

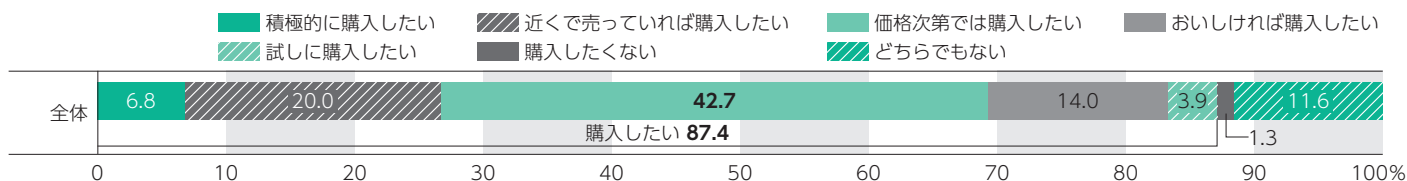


図8 飼料用米で育てた畜産物や加工品の従来品に対する価格許容度

